

プロジェクト科目 **議事録**

06年 10月 3日提出

プロジェクト科目 テーマ名 小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究	
記録者氏名 G	学生 ID -
日時	2006年 8月 29日 (火) 10:00 ~ 12:00 / 13:00 ~ 15:30
場所	びわこリトリートセンター セミナー室
議題	企画案の決定 Web についての話し合い 担当分け
参加者	A, B, C, D, G, H, T, TA
記録	<p>〔企画案の決定〕</p> <p>☆論点1. コンセプト</p> <p>D 「『児童が能について説明できるようになる』というBの案のコンセプトは凄く良い」 A 「周りの人に布教活動ができるようになるということだ。そこが非常に良いと思う」</p> <p>A 「皆の企画案を見ていくと、『能特有の魅力を伝える』というGの案のコンセプトに通じるものが多いように思う」</p> <p>様々な意見が出たが、最終的には、能特有の魅力を伝えることによって(←手段)、児童が 自分から 伝えたくなる 観たくなる ような WS にすることが決定した。</p> <p>☆論点2. WS の方法</p> <p>まず、1日目の企画案のプレゼン合戦を終えてみて、各自気づいた点・気になる点を挙げていった。</p> <p>D 「児童は能を具体的なイメージとして捉えられているのか？そもそも、『伝統芸能としての能』という総合的な概念を教えたほうが良いのではないか。春の目標が達成されたのか疑問だ」 A 「第1回 WS 後の絵日記を見る限りでは、目標は達成されたと思う」</p> <p>B 「春学期の WS は、体験ブース、学習ブースともに児童はお客さんであり、私達が全てをお膳立てする形だった。秋学期は児童が WS 自体に主体的に関わる形にした方が良いのでは？(私たちからの『提供』は春で終わったと考え、秋は児童による『アウトプット』に重点を置いたほうがよいのではないか。※例:Bの案)」</p>

- D 「春学期と同様、WS を用意するのは私達で、児童がそれに参加する形をとるのも悪くないと思うが」
- D 「皆の企画案に共通しているのは、事前学習でWS に向けての準備をし、WS 当日を迎えるという二段階の形になっている点だ」
- B 「大きく意見が分かれるところとしては、秋のWS に春のWS での体験ブース的なものを入れるか、入れないかだ。児童の絵日記などを見ると、体験を期待されているように思う。しかし春との差別化を図るためには、体験を入れるかどうかについては考慮が必要だ」
- A 「確かに、体験して、単純に教えてもらったことが楽しかったというのは私達が意図するところと違う。最終的には、児童には本物の能を観に行ってもらいたい。それを考えると、必ずしも体験にこだわる必要はない」
- B 「事前学習の企画案で多いのは、面を作成するというものだが、画用紙などで作るのは効果が薄いのではないか」
- D 「秋学期は全体を通しての統一感を出したい。春学期は題材にする能が『賀茂(加茂)』と『羽衣』の2つであったため、若干ばらけてしまった感がある」

会議の初期段階で全員の合意が得られた点は以下の3点である。

- ① 事前学習→WS という流れにすること
 - ② 題材にする能を統一すること
 - ③ WS の位置づけ=児童に実際に観能に行ってもらうためのきっかけ であること
- これ以降は主に③について深める議論が展開された。

◎ どのような方法をとったらWS と実際の観能をつなげられるか？

- 1. 能特有の魅力を伝える
- 2. 本物を見せる

1. 能特有の魅力を伝える について

- B 「能に対して感じる魅力は人それぞれだ。WS の方法を考える際、自分たちが思う魅力から組み立てるのは押し付けになってしまうかも？」
- D 「押し付けは確かに避けるべきだが、そこにこだわりすぎるのも良くないのでは。まずは、一度私たちの中で魅力を統一してみよう」

Dの発言を受け、一人ひとりが能に対して感じる魅力を挙げることになった(下記参照)。

面・装束など総合的なビジュアル

非日常感

不思議な雰囲気

無駄なものが無い・本質的なものだけを伝えている感じ

緊迫感

結果として、Bの指摘通り能に対して感じる魅力は人それぞれであることが改めてはっきりした。また、ビジュアル面を除けば抽象的なものが多く、それらを具体的にどのような方法で児童に伝えられるのか。議論が行き詰まってきたため、上記に挙げた魅力のことを念頭に置きつつ具体的な方法をブレストすることになった(以下参照)。

展示(模擬舞台の疑似体験)、紙芝居、本物を見せる(装束含む)、仕舞・素謡・舞囃子の鑑賞、面を付けて型・舞・歩き方などの体験、面の種類の紹介(事前学習でもよい)、(模擬舞台と合わせて)舞台を立体的に説明

太字のものは、話し合いの結果、重要だと思われたものである。これらをWSの3本柱とすることで皆の意見が一致した。

特に、「本物を見せる」については、「児童が観能の疑似体験を通して自分なりの魅力を発見できる＝能特有の魅力を伝えられるのではないか」という推測から、活発なアイデア交換がなされた。

2. 本物を見せる について

B「WSの最初に、能楽師に仕舞を舞っていただくのはどうか？」

B「魅力の一つとして『緊迫感』が挙げられていたが、『音』で緊迫感を感じてもらえるかもしれない(小鼓・大鼓・笛・掛け声など)。

WS に関しての議論は、今回の会議内容をふまえて各自が具体的なアイデアを練ってくるといふことで終了となった。

[Web についての話し合い]

Web に関しては、簡単な情報共有がなされた。

目的・・・運営者(教員・学生・一般の人など)側がプロジェクトないしはプログラムを実施したくなるようなサイトを作ること

対象・・・プロジェクトないしはプログラムを実施する運営者

[チーム分け]

Web 班・・・A、C、H

WS 班・・・B、D、E、F、G

※基本は上記の通りだが、状況によっては柔軟に対応すること